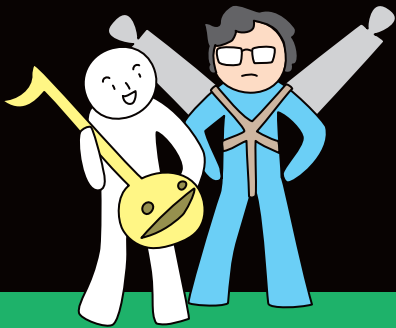
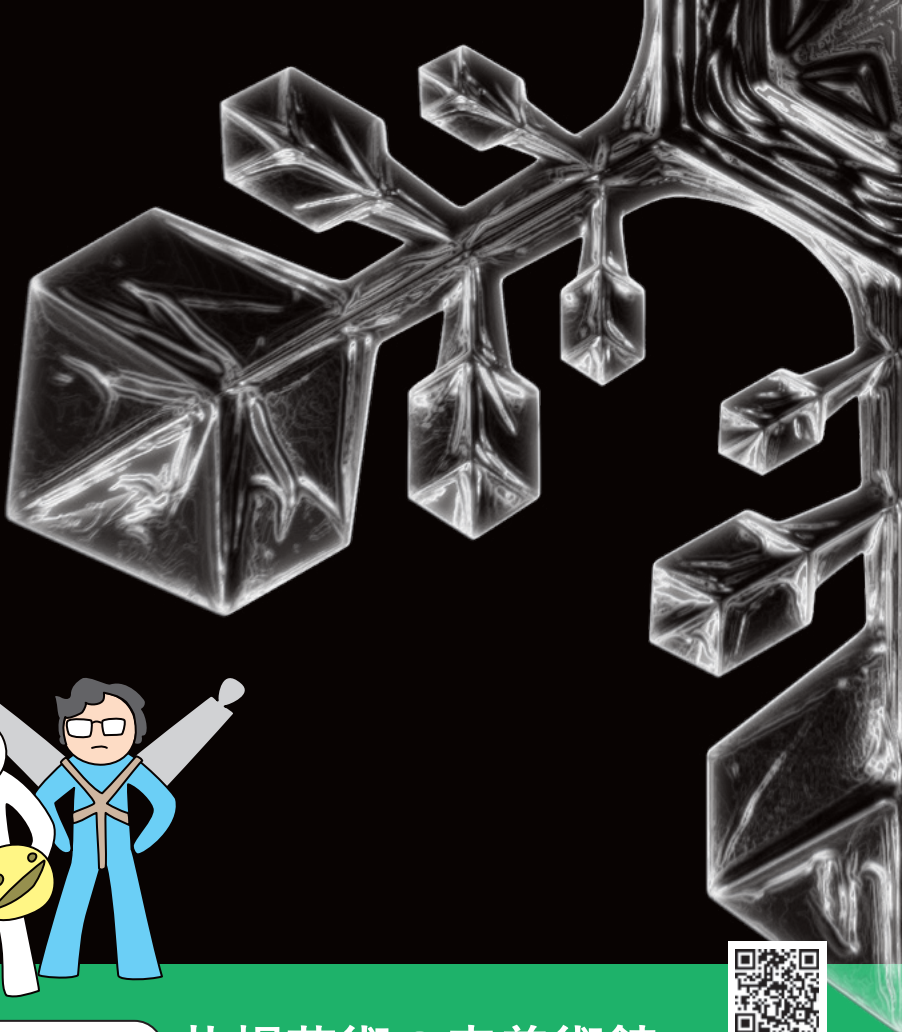


メディアアートの森



English
Guide

会場ガイドブック

札幌芸術の森美術館

LAST SNOW

札幌国際芸術祭

SIAF2024

SAPPORO INTERNATIONAL
ART FESTIVAL

Usa Mosir un Askay utar Sapporo otta Uekarpa

「メディアアーツの森」に ようこそ

ここ札幌芸術の森美術館では、札幌国際芸術祭2024 (SIAF2024) の未来の冬の実験区のひとつとして「メディアアーツの森」というタイトルの中で2つの展示を実施します。

「明和電機 ナンセンスマシン展 in 札幌」では、ユーモアあふれるナンセンスマシンの数々に触れて遊ぶことができます。メディアアート界随一のエンターテイナーならではの発想を形にする才能と、常識を超えた新しい未来をつくる姿勢を間近に感じる機会になるはずです。

緑豊かな札幌と、テクノロジーを活用するメディアアーツの分野は結びつかないように感じられるかもしれませんが、実は深い関係があります。もうひとつの企画展「メディアアーツ都市・札幌って知ってました？」は、札幌発のテクノロジーやクリエイティブ産業に注目して、両者の結びつきを紹介します。

アートやテクノロジー、音楽にあふれた魅惑の森を、一緒に探検していきましょう。

札幌芸術の森美術館とは

札幌市南部の自然豊かな丘陵地に位置する複合文化施設「札幌芸術の森」にある美術館。創造都市・札幌の文化芸術振興の重要な拠点のひとつとして、人々の想像力と創造性をはぐくみ、心豊かなまちづくりに貢献するさまざまな活動を展開しています。



明和電機 ナンセンスマシン展 in 札幌



Photo: MITSUHASHI Jun

明和電機が開発した、ユニークな形とおもしろい仕組みからなる「ナンセンスマシン」。4つの大きなシリーズを中心に、展示会の概要を紹介します。

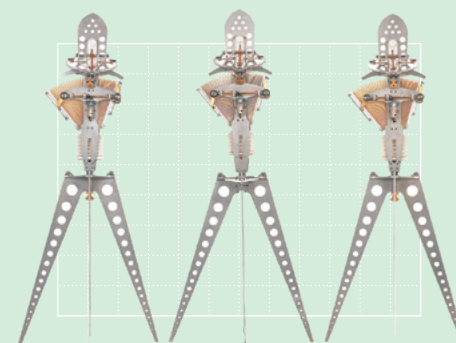
INTRODUCTION

1993年5月、土佐信道は兄の正道とともに明和電機を結成しました。それ以来、青い作業服をトレードマークとしてさまざまな製品＝ナンセンスマシンを開発し、ライブや展覧会など、国内外で発表しています。2001年4月、前社長・正道の定年退職にともない、信道が代表取締役社長に就任。2019年3月には初の公式ショップである「明和電機秋葉原店」をオープン。2023年にデビュー30周年を迎えました。

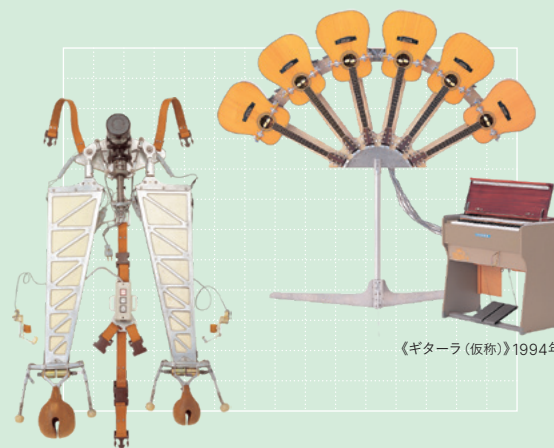


VOICE MECHANICSシリーズ 声の「機能性」と「呪術性」

声帯は、シンプルな構造にもかかわらず、幅広い音程と発音ができるという機能性をもった、とても特殊な楽器といえます。また、うれしい声を聞くとうれしくなったり、声には人の感情をゆさぶるような呪術性も兼ね備えているとらえられます。原点は胎児をモデルとした腹話術人形《サバオ》。サバオは人工声帯で歌を歌う《サーモンズ》へと発展します。サーモンズで得た技術をもとにした大ヒット作の《オタマトーン》、さらには笑い声を再現する《ワッハゴー》、犬の吠える声を再現する《ディンゴ》などが生まれました。



《サーモンズ》2004年



《ギターラ (仮称)》1994年

《パチモク》1993年



TSUKUBAシリーズ 情報ではなく、物質による 電動楽器

インターネットの発展とともに、音楽が物質から離れ、デジタル情報として扱われるようになりました。それに対してツクバシリーズは、100Vの電気で電磁石やモーターを動かして物理的に音を出します。スイッチでパチが動き木魚を鳴らす《パチモク》、同じくスイッチで電子音によるリズムパターンを出す《コイビート》。この2つからそれぞれ手動式/自動演奏式のナンセンス楽器が多数開発されます。さらにこうした楽器を使ったパフォーマンスを行うライブステージも展開していきました。

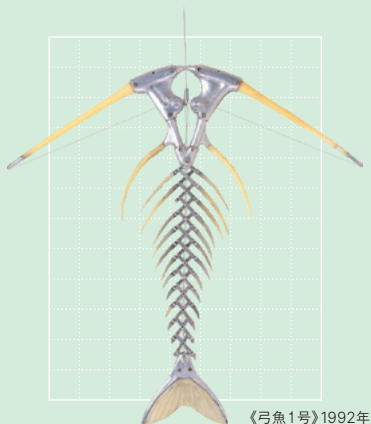
明和電機 にとっての「ナンセンス」とは

ナンセンスは、世界に対する疑問や、好奇心から生まれた、自分の中の新しい常識のこと。土佐信道はリサーチやたくさんの方のスケッチでナンセンスを明確にし、ナンセンスマシンへと転換します。

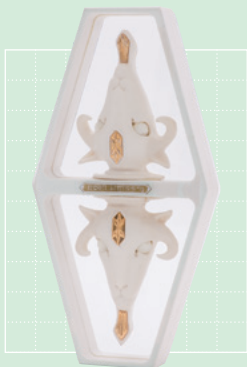


NAKIシリーズ 自分とはなにか

土佐信道が学生のときにぶつかった「自分とはなにか」という問題。これに芸術・科学・宗教面から向き合うため、幼いころから見る魚の悪夢の源をたどるべく魚の本を描いたり、生物学を学んだり、アニミズムに関わる道具をリサーチしたりしました。そもそも明和電機は魚器(ナキ)シリーズを発表するために結成されました。最終的につくられたのは26製品。この魚シリーズから《魚(ナ)コード》のような商品も大量生産されました。



《弓魚1号》1992年



《泣き羊時計》2007年



EDELWEISSシリーズ 女性性とはなにか

土佐信道自身の「女性性とはなにか、そして生物的なオスとメスの行動とはなにか」という疑問をきっかけに、女性から連想される子宮、遺伝子、表層、ファッション、エロス、母性といったキーワードに対する、感情的なインスピレーションを花というシンボルで表現することにしました。この感情をもとに、おとぎ話「EDELWEISS PROGRAM」を執筆し、それを絵にして、そのイメージからナンセンスマシンをつくりました。6つのシーンからなる物語と紐づくナンセンスマシンは、現在進行形で制作中です。

TOYS

ショップでは、多くの方が手にとれるように設計されたナンセンスマシンを購入できます。明和電機オリジナルのグッズも取り扱っています。



《オタマトーン》

LIBRARY

ナンセンスマシンの源であるスケッチを展示します。アイデアが実現するまでの過程がどのようなものだったかをうかがいすることができます。



過去の展示の様子

「ナンセンス」の種を見つける おかしな発想法

明和電機の「ナンセンスをもとに製品開発をする」というプロセスから生まれた、おかしな発想法。ナンセンスの発想の原点となる、自分の中の世界の感じ方(フィーリング)を発見しましょう。

- ① **B** に朝目が覚めてからさわったものを2つ書いてください。
- ② **A** に「おかしな」ということばを2回書いてください。
- ③ 「おかしな」+ **B** を見て、頭の中に浮かぶことばを **C** に書いてください。
- ④ **C** に書かれた2つのことばから想像するおかしなモノの絵を **D** に描いてください。



Photo: MITSUHASHI Jun

おかしな発想シート

A	+	B	=	C
<input type="text"/>		<input type="text"/>		<input type="text"/>



D
<input type="text"/>

メディアアーツ都市・札幌って知ってました？

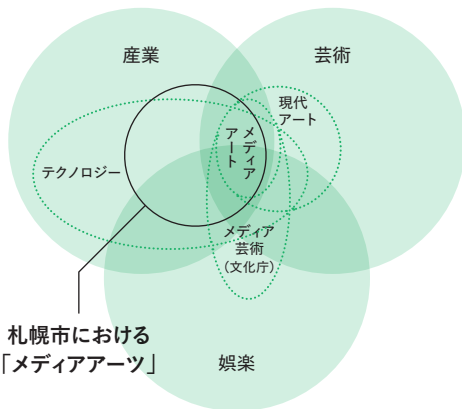
メディアアーツ都市を知るための3つのQ&A

Q1 「メディアアーツ都市」ってなに？

A ユネスコ創造都市ネットワークのメディアアーツ分野に加盟する都市のことを指します。このネットワークには食文化や音楽など7つの分野があり、札幌市は2013年に世界で2番目、アジアでは初めてメディアアーツ分野に加盟しました。現在では21カ国22都市が加盟しています。メディアアーツの捉え方は各都市によってさまざま、リヨン(フランス)はアートを中心に据えている一方で、ヨーク(英国)は産業に特化し、リンツ(オーストリア)は双方、全方位としています。



▲「さっぽろ雪まつり2023」雪ミク プロジェクションマッピング
© Crypton Future Media, INC. www.piapro.net



Q2 札幌市における「メディアアーツ」ってなに？

A 札幌市が定義する「メディアアーツ」とは、「アート」を要素として含みながら、「産業」「テクノロジー」「都市空間」といった幅広い領域を対象としています。大通公園や地下歩行空間など、馴染みのあるインフラも人々の創造性が交差する場として考え、都市全体をひとつのメディア(=媒体)とみなします。

▲札幌市が定義するメディアアーツの位置付け
「メディアアーツ」の産業での活用及び関連する産業人材の育成に向けた潜在ニーズ発掘型調査研究(2016)をもとに作成

Q3 なぜ札幌は「メディアアーツ都市」になったの？

A まちをつくるのは人々の「アイデア」あってこそと札幌市が考えているためです。2006年の「創造都市 さっぽろ」宣言以降、札幌市は創造性を重視したまちづくりを行い、ITや情報メディア、コンテンツ産業系の企業が数多く誘致されました。さらに市民自身が持つ、自発的な創造性を活かすメディアコンテンツへの施策を進めていく中で、メディアアーツ都市への加盟が実現しました。



Photo: KIOKU Keizo

SIAF2014 チカ・ホ(札幌駅前通地下広場)での展示の様子 ▶
A.P.I.《フェニックス:極地図をめくって》2014

4組の札幌ゆかりのクリエイター

雪ミク (クリプトン・フューチャー・メディア株式会社)



声で世界を魅了する
バーチャル・シンガー

SNOW MIKU
Art by KEI © Crypton Future Media, INC. www.piapro.net piapro 初音ミク

「初音ミク」はクリプトン・フューチャー・メディア(札幌市)が手掛けるバーチャル・シンガー。2007年のソフトウェアの発売以降、ユーザーによって多くの楽曲が制作され、分野を越えた創作の連鎖が世界に広がりました。「雪ミク」は、2010年の「さっぽろ雪まつり」で真っ白い「初音ミク」の雪像をつくったことをきっかけに誕生。以降雪ミクのフェスティバル「SNOW MIKU」を毎年北海道で開催。雪ミクの衣装デザインは、毎年テーマに沿ってネット上で広く公募。ファンと一緒に冬の北海道を盛り上げています。

LAUSBUB

LAUSBUB*は札幌市内の高校の軽音部にて結成されたニューウェイブ/テクノポップバンドです。コロナ禍をきっかけに、家でつくることのできる電子音楽の制作・配信を始め、2021年にリリースされた「Telefon」はSoundCloud**で全世界ウィークリーチャート1位を記録しました。オンラインを発表の場にすることで制作者個人が世界につながれるという環境が、テクノロジーの発展によってもたらされました。その環境を活用して札幌から世界に向けて発信しています。



*ドイツ語で「いたずらっ子」の意
**ドイツ生まれの音声ファイル共有サービス

サウンドが海を越えたいはずらっ子

石井 裕十 MITメディアラボ タンジブル・メディア・グループ

石井裕は札幌出身のマサチューセッツ工科大学(MIT)教授で、実体のないデジタルなものをタンジブル=触れられるものへと変換する「タンジブルピッツ」を開発しました。結果までの過程が見えにくいデジタルの世界において、いかにそのプロセスを身体的に理解できるのかを探り、人々の新しいインタラクションを生み出すことを目指しています。

デジタルと人をつなぐ研究者



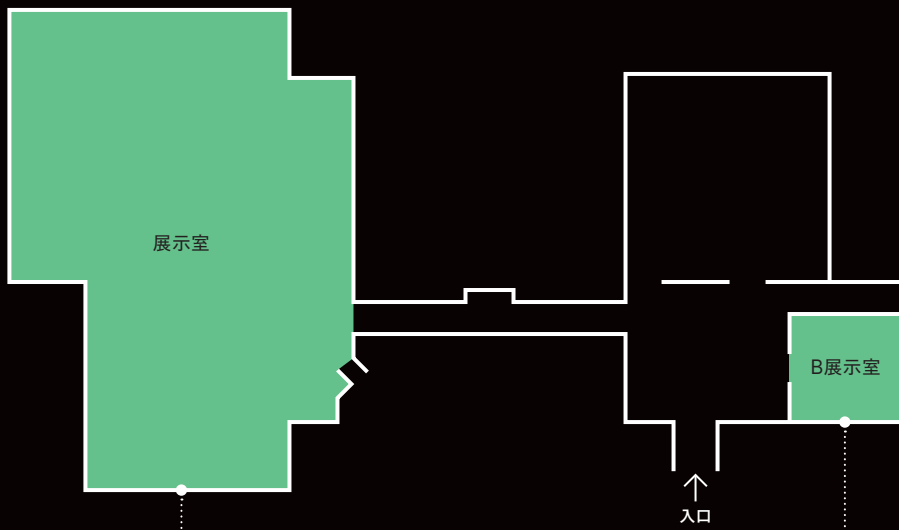
Photo Courtesy: IT media

Yukikaze Technology

Yukikaze Technologyは、世界的なロボットコンテストを目指す札幌の中高校生チームです。ロボットの製作に必要な資金調達、そのための広報活動やワークショップを積極的に展開し、チームの体制づくりや運営を自ら行います。組織を維持することで地域に根差した団体となり、テクノロジーによる科学教育の機会を提供したり、ロボットの製作だけではない組織運営などを学ぶ場となっています。

ロボットもつくる、組織もつくるスーパージン





明和電機 ナンセンスマシーン展 in 札幌

メディアアーツ都市・札幌って知ってました?

メディアアーツの森 [明和電機 ナンセンスマシーン展 in 札幌 / メディアアーツ都市・札幌って知ってました?]

会場 札幌芸術の森美術館(札幌市南区芸術の森2丁目75)

展示室: 明和電機 ナンセンスマシーン展 in 札幌 / B展示室: メディアアーツ都市・札幌って知ってました?

会期 2023年12月16日(土)~2024年3月3日(日)

開館時間 9:45~17:00(入館は閉館の30分前まで)

休館日 月曜日(月曜日が祝日・振替休日の場合は翌平日休館)、12月29日(金)~1月3日(水)

主催: 札幌芸術の森美術館(札幌市芸術文化財団)、札幌国際芸術祭実行委員会、札幌市
特別協力: STV札幌テレビ放送(明和電機 ナンセンスマシーン展 in 札幌)



札幌芸術の森美術館
ウェブサイト

札幌国際芸術祭実行委員会事務局

〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目札幌時計台ビル10階 TEL: 011-211-2314 | E-mail: info@siaf.jp

X @SIAF_info | @siaf2014info | @siaf_info | 札幌国際芸術祭/SIAF | https://2024.siaf.jp



SIAF2024
公式ウェブサイト